

石田総務大臣と有識者との意見交換会（第5回）議事要旨

1. 日時

平成31年1月8日（火） 11:30～13:30

2. 場所

総務省大臣室

3. 出席者

石田総務大臣、
大石所長、佐藤顧問、神野学長、松山顧問、村井教授

4. 有識者からの主な意見

- 地方の再生のためには、「やりがいのある仕事」を各地方で増やしていくことが必要。
- 東京にはお金がない人も多く、心の豊かさを求める人は増えている。介護等の地域における対人サービスの報酬を引き上げるなど、政策的に地方に誘導する工夫が必要。
- Society5.0は、生産性向上だけでなく、社会が抱える様々な課題の解決を目指すものであり、「心の豊かさ」や「将来の確かさ」などを総合的に目指すべき。
- いわゆる「北欧型」の生産性向上では、再訓練などによって人間の能力そのものを向上させることを重視している。
- 8Kの技術を在宅医療・遠隔医療の現場で活用すれば、例えば、対面で診察をするよりもはっきりと唇や皮膚、結膜の血管等の状態を確認することができ、患者の疾患の特定に大きく役立つ。
- 地方でも技術革新によって、高いレベルの医療、教育を受けられるようにすれば、地方の方が環境が良いため、人は移っていく。
- データを使いこなすためにはExcel程度のリテラシーがあれば十分で、全ての日本人がデータを使いこなせるようになれば、日本はすごい国になる。
- 各地方の農林水産業、地場産業、伝統工芸品等の分野におけるイノベーションを支えるため、高校・高専、大学、各地の名人・名工などの連携を強化し、教育・訓練のシステムを再構築すべき。
- 地方でしっかりした教育を受けられるという安心感が大事。小・中・高と連携していい人材を作ることが必要。
- 年齢別の消費性向の動向をみると、特に若年層を中心に低下傾向にある。